

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871600185		
法人名	有限会社 かさま夢くらぶ		
事業所名	ケアホーム夢くらぶ	ユニット名	1ユニット
所在地	305-1625 茨城県笠間市来栖2846-5		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果 市町村受理日	平成27年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871600185-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年1月28日	評価機関 決済日	平成27年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設では大きな農園があり今年もブルーベリーがたくさん収穫されました。ブルーベリージャムを作りヨーグルトにかけて食しました。利用者様と共にとってもおいしくいただきました。今年も笠間の菊まつりに11月6日行きました。八重のさくらをモデルにして とても華やかでした。天気も良く利用者様も元気で 外出すること出来ました。天気の良い日は できるだけ外出できるように考慮しています。また今年に入所されて5年目になる利用者様が100才の誕生日を迎えることが出来 盛大にお祝い致しました。市長様もおいでくださいました。普段は自由に過ごしていただいております、カラオケが好きな方は ホールで楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲は雑木林や田んぼがあり自然環境に恵まれているほか、敷地内で栽培しているブルーベリーでジャムを作ったり、自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れたり、利用者は四季を感じた生活を送っている。
割烹料理店をグループホームとして改築したことで、建物の構造上課題となっていた居室に明かり窓を設置したり、風呂場を改造したりと、その都度施設長と職員で話し合いを持ちながら利用者の生活環境の改善に取り組んでいる。
居間から廊下への段差や死角になる場所等については、職員が十分リスクを把握するとともに、共通認識を持って、利用者が安心、安全に生活できるよう支援している。
車いすでの座位保持の安定や褥瘡の予防など、利用者一人ひとりが必要とする支援の方法について職員で話し合い、工夫をしながら事業所での利用者の生活がより良くなるよう支援に取り組んでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を確認できるように掲示をしたり、ミーティングの際に唱和を行って共有し実践につなげている。	居間や食堂等の誰もが見やすい場所に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を掲示し、2ヶ月に1度開かれる職員会議時に全員で唱和して共有している。 施設長や職員は理念にそって、利用者一人ひとりの気持ちを大切に、利用者に寄り添った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の行事に招待されて参加したり 近隣の方を招いて防災訓練を行ったりと、積極的に交流を心がけている。	近隣の小学校の運動会や秋祭りに招待を受け、運動会の応援や合唱、劇の見学などに出かけている。 歌のグループや手のマッサージ、フラダンス等のボランティアを受け入れ、利用者地域住民との交流を図っている。 代表者が神社の清掃に参加したり、地域住民が野菜を届けに気軽に立ち寄るほか、避難訓練への参加を得るなど、地域住民と良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市で行う認知症の講習会に参加して皆で共有し、家族の方にも報告しみんなで支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度家族や市職員、民生委員等で話し合いの機会を持ち事業所の状況や報告を行ったり、意見交換を行い サービス向上に生かしている。	運営推進会議は市職員や民生委員、区長、施設長、介護支援専門員が出席して2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の近況報告や事業所の活動内容を報告するとともに、熱中症対策や感染症対策、防災についてなど、毎回テーマを決めて意見交換をしている。 運営推進会議に以前は家族等の参加も得られていたが、最近では得られていない。	運営推進会議で様々な立場から活発な意見が得られるよう、家族等の参加も促すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員と連携を取り研修会などに積極的に参加したり、市が主催するグループホームの見学会の会場になるなど市と良好な関係を築いている。	利用者の要介護更新申請の確認等で介護支援専門員が市担当者を訪問し、事業所の状況を報告している。 市主催の笠間地区地域ケア連絡情報交換会に介護支援専門員が出席し、情報交換を行っている。 年1回程度、生活保護受給者について市担当者の来訪があり、利用者の生活状況や事業所の活動状況を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	こちらの事業所では玄関チャイムを設置して利用者の外出を察知し、職員が目が行き届かない時間帯に限り、利用者の安全の為に施錠をしている。契約書にも身体拘束をしないケアの同意書を組み入れている。	施設長や職員は身体拘束の弊害について理解するとともに、玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアに努めているが、利用者の入浴介助など、職員が目が行き届かない時間帯に限り、家族等の了解を得て玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で見守り、声を掛け合っている。研修会にも積極的に参加し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、研修会に積極的に参加するなど、知識を得て行くよう、必要とする利用者があっても受け入れていくよう努めていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い疑問点がある場合には充分理解して契約してもらえるように話し合いができるよう配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情・ご意見箱を設置し意見や要望を引き出す努力をするとともに、運営推進委員会の際に家族や地域の意見を反映して施設でのミーティングの時にその意見が質の向上につながるようにできるように話し合いを行う。	職員は利用者と日々の関わりの中で、家族等からは来訪した際に意見や要望を聴くようにしている。 家族等から「職員の大きな声が気になり、利用者が怒られているように感じる」との意見を受け、事業所としても真摯に受け止めて改善に努めた結果、現在はそのようなことはなくなっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・利用者ひとりひとりのカンファレンスを開催し、職員の意見や提案を聞き、質の向上に役立てるよう取り組んでいる。	施設長は2ヶ月に1回開催する職員会議で、職員の意見や要望を聞いているほか、いつでも話し易い関係を作っている。 職員から出された意見を基に、利用者の生活環境の改善等に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力に目を向け、実績をくみ取り処遇へ反映させることで、やる気が起きるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、段階に応じた研修、講習、研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の介護委員会に出席した際に交流を心がけている。積極的に参加してつながりを持つよう努めている。ケアマネ会が発足して研修会など積極的に取り組む。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、本人や家族から困っていることや不安なことを聞き、その要望に耳を傾けながら、本人の安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人に向き合い、本人の声にしっかり耳を傾け、安心して暮らせるようにその人らしい生活が送れるように支援していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなことでも家族の声をしっかりと耳を傾け、思いを受け入れて信頼関係が得られるように支援していく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との関わりを持つ中で一人一人の思いを理解、共有し、その方の望む生活になるように関係構築を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に利用者様に会えるように面会時間作っていない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に一度の笠間の菊祭りを利用者様と見学している。利用者の笑顔がみることができ、ほほえましく思う。	事業所に利用者の友人が訪ねて来ており、居室や玄関横の談話室を語らいの場として提供し、お茶を出して歓迎するなど、馴染みの関係の継続を支援している。 利用者の意向や希望に応えられない場合には、家族等に伝えて墓参りや馴染みの理容店での散髪等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え日常生活のリクリエーション等は職員が常に見守り、援助をし、声がけを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退所されている利用者様家族とも気軽に相談できる関係を絶やさないように夢くらぶ通信を送付したりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの言動、仕草、またつぶやいた言葉から何を思い、何を望んでいるかを探る。意思疎通の困難な方も家族等から話を聞き、利用者本位の支援ができるように努めている。	職員は日々の暮らしの中で利用者の行動や会話から思いや希望、意向を把握している。思いの表出の難しい利用者については、家族等から話を聴いたり、職員同士で話し合っで利用者本位に検討している。利用者について職員が知り得た情報については、連絡ノートに記載して職員同士で情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりひとりに寄り添った介護をするため、介護サービスが必要になった経過を家族から聞き、家族、本人が安心して暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの状態を観察し、希望を尊重しながらスタッフ同士情報交換して、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望をとりいれ全スタッフでカンファレンスやミーティングを行うと共に毎月モニタリングを実施し3か月に1度見直して介護計画を作成している。また家族等の来訪時に説明して同意を得ている。	計画作成担当者が介護記録より転記した個人別の介護支援経過記録を参考にしたり、利用者や家族等、職員の意見を聞いたりして介護計画を立てている。介護計画は3ヶ月毎に見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合には、現状に即した介護計画に見直しをしている。家族等の来訪時に、介護計画について説明を行い同意を得ている。状態に変化があった場合は見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のアセスメントに日々の生活の様子を記録し変化やきずきなどには、申し送りノート連絡ノートを書く事で情報を共有しより良いケアが行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の利用者や家族の希望に耳を傾け、それに対して出来る限り柔軟に臨機応変に対応し、その人に合った支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の体調、気持ちを考えながら地域の行事等に参加したりして、本人が心身ともに楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意見を聞き、医療関係者との連携をとりながら病状にあった病院へ受診を行っている。協力医療機関の医師による訪問診療を受診することができ利用者の健康管理を行っている。	利用者の病状にあった病院をかかりつけ医としており、職員が引率したり家族等に同行をお願いしたりして受診支援をしている。毎週協力医療機関の医師による訪問診療が実施され、利用者の健康管理に役立てており、診察内容は電話等で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、介護員で利用者の情報を共有し、看護師に相談し、適切な看護、受診が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリー等で情報交換を行い、その都度対応しながら、医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	市内の医療機関との連携を確保し、事業所の意見を家族に理解していただいたうえで同意書に署名をいただいている。	利用者が重度化した場合は看取りは行なわず、医療機関での対応となることを入居時に本人や家族等に説明をして同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時に、適切な対応ができるように応急処置の技術など定期的に学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制をきずきながら年に2回、防災訓練を消防署員の協力のもとに行っている。スプリンクラーも設置している。	避難訓練は自主訓練を含めて年2回、消防署や地域住民の参加を得て実施している。訓練の内容や反省点、消防署の講評を記載した実施記録を作成しているが、利用者全員が避難完了した時間は記録していない。災害に備えて米や缶詰、水、簡易トイレ等を備蓄し、備蓄品一覧表を作成して管理している。	避難訓練の実施後には、避難完了の時間を記載しておくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であり私たちの将来の姿と考え 常に尊敬を心に持って接して行きたい	職員は利用者を人生の先輩として敬い、人格を尊重した対応に努めている。 言葉遣いを含めた接遇の研修に介護支援専門員が出席し、事業所で伝達研修を行っている。 個人情報については、職員以外入室しない鍵のかかる事務所の書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の思いをくみ取り願いに耳を傾け自己決定、自己満足できるように日々 ころくばりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの能力とペースを重視して個々の希望に配慮しながら生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性、希望に応じて望む髪型、ヘアカラー、服装等が得られる様家族の協力の基に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に近くの直売所に買い物に出かけた時にはリクエストメニューにしたり好みの食材でお好み焼きをつくったりと食事を楽しむ工夫をしている。	調理師の資格を有する代表者が毎食の食材の買い出しを含め調理を担当し、利用者一人ひとりの食事形態や体調に合わせた食事の提供をしている。 利用者はできる範囲でテーブル拭き等を行っている。 職員は利用者と同じ食事を摂り、嚥下の状態を見ながら安心して楽しい食事となるよう支援をしている。 近くの直売所に出かけた時に、利用者の希望する外食の機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日のカロリー・水分摂取量の記録等健康で快適な生活が長く送れる様に、また生活が楽しめる細心の注意を払い又利用者のリクエストにも答えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアには特に注意して利用者ひとりひとりチェックして歯周病や義歯の不具合の早期発見に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄のパターン習慣を生かして、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合ったトイレ誘導をするとともに、リハビリパンツを活用して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	季節の野菜、果物、魚等を献立に多く取り入れ、おやつにはヨーグルト、かんてんを使用する等、便秘による健康被害を熟知し解消に向けて管理者、職員は神経を使っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の方々は入浴を楽しみにしている為、1回でも多く入浴できるようにバイタルチェックを行い体調の許す限り入浴希望が叶うようにしている。	週3回午前中の中の入浴を支援している。 車いす利用者の中の入浴も含め、複数の職員で安全で快適な入浴となるように支援をしている。 入浴を拒む利用者には、時間をずらして声をかけたり、声かけする職員を替えたりして利用者の興味のある話で入浴に誘うなど無理のないように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣やそのときどきの状況に応じて適度な運動、安眠がとれる生活リズムを支援し、安心して気持ちよく眠れるように、環境整備を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノート、受診報告書を記帳し副作用の出現や体調の変化に対応できるよう万全を期している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりの出来ること、やりたいことを把握し能力に合ったお手伝いをお願いしている。出来る喜びが味わえるよう、工夫している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられる日は職員らと共に、外出支援をしている。	年間の行事予定にそって、お花見や陶芸の丘、笠間の菊まつりなどに外出している。車いすの利用者には、車いす対応のリフト付き車両での外出支援をしている。天気の良い日には、利用者と職員と一緒に事業所周辺を散歩して季節を肌で感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方、できない方それぞれに合わせて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、電話等ができるよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースとして和室を用意し、そこに植木を置き、窓からは自然豊かな風景が楽しめるようにしてある。落ち着いた雰囲気になるよう心がけている。玄関なども日があたりとても暖かく色とりどりの花があり、とても工夫されている。	居間は畳敷きで舞台付きの大広間となっており、ベッドを配置したり、全員が座れるようにソファを配置して自由に過ごせる場所となっている。畳の上にゴザを敷き、車いすの利用者も居間で過ごせるように配慮している。舞台には大型のテレビやカラオケセットがあり、余暇時間に活用している。玄関や居間の日当たりの良い場所に、観葉植物や鉢物の花などが置かれ、利用者の目を楽しませている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下などにも椅子を置き、誰もが自由に使えるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者様が昔使っていたものを居心地よく、過ごせるよう工夫している。部屋に日光が差し込み明るくなっており、利用者様も喜んでいる。	南側に面していない居室も含め、全室天窓を設置して採光が出来るように工夫をしている。 備え付けのベッド以外に箆笥や机、冷蔵庫など、利用者は各自使い慣れた物品を持ち込み、生活感のある暮らしをしているほか、誕生会にプレゼントされた色紙や創作の時間に制作したぬり絵、家族の写真などを飾り、居心地良く暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりが設置されており、自立歩行や見守りでの歩行訓練も行えるような工夫がされている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホーム夢くらぶ

作成日 平成27年7月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議で様々な立場から活発な意見が得られるように、家族等の参加も促すことを期待する。	2ヶ月に1度テーマを決めて家族、市職員、民生委員で話し合いの機会を持ち状況を報告し意見交換する	推進会議は市職員、民生委員、施設長、介護支援専門員で行っていましたが、家族の参加も必須に行っていく。	6か月
2	35	避難訓練の実施後には避難完了の時間を記載しておく。	年に2回防災訓練を消防署員の協力のもとに行う	避難訓練、自主訓練を含めて消防署、地域住民の参加で行い、実施後は利用者全員が避難完了した時間を記載する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。